

平成17年11月17日

報道関係機関の皆様各位

東京大学海洋研究所長
寺 崎 誠

報道関係者と東京大学海洋研究所研究者との
懇談会について（ご案内）

拝啓 時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

東京大学海洋研究所は、1962年に我が国における総合的な海洋科学の研究・教育機関として設置され、海洋の物理、化学、生物、地学及び生物資源に関する幅広い領域をカバーして、先導的な研究を展開しております。

海洋科学は、未知への挑戦といったフロンティア的な科学と地球環境や海洋資源といった人類の未来に直結する諸問題を解決する実学的な科学が複合した魅力ある研究分野です。

地球表層の7割を占める海洋に関する知見を広く国民に解説することは海洋科学の研究に携わる者の重要な使命のひとつです。また、海洋研究所が取り組んでいる研究活動について国民に知らせることもまた重要です。

このような一般の方々への情報提供については、これまでも海洋研究所は、ホームページや書籍その他の出版物等を通じて行ってきたところですが、海洋研究所におけるさまざまな取組みを一般の方々に伝えるためには仲介者である報道や行政機関との十分なコミュニケーションが不可欠です。

このたび海洋研究所では、海洋研究所が取り組む課題や専門家が多用する用語の解説などの話題提供を行う機会として「報道関係者と海洋科学研究者との懇談の場」を用意いたしました。また、併せて皆様方との間で自由に意見交換する場を持ち、海洋のシステムをより総合的に理解していただき専門的な内容をわかりやすく国民に伝えるための具体的なノウハウなどについて、共通の認識を持つことを目指したいと考えています。これにより、海洋科学に関する顕著な現象などが発生した場合などに専門家による説明が受け手の側に滑らかに伝わるようにもしたいと考えています。

「懇談の場」は、今後も柔軟な運営とより基本的な事項についての理解に役立つような内容を考えており、参加者からの意見に応じてバラエティに富んだ題材を用意し、定期的を開催して行く予定です。

この機会にぜひとも皆様方にご参加いただきたくご案内いたします。

敬具

記

1. 日 時 平成17年11月30日(水) 15時30分から2時間程度

2. 場 所 東京大学海洋研究所会議室
東京都中野区南台1-15-1(次ページの地図参照)

3. 話題・話題提供者

教授 宮 崎 信 之(附属海洋科学国際共同研究センター)

海洋科学の創成に向けた新しいサイエンス(Bio-logging Science)の紹介
- 世界最先端のバイオリギング・システムを用いた海洋生物の潜水行動と海洋環境研究 - (添付資料参照)

教授 徳 山 英 一(海洋底科学部門)

プレート境界型巨大地震の活動履歴と巨大斜面崩壊、プレート沈み込み境界におけるメタンガス循環 (添付資料参照)

4. その他 懇談会終了後、簡単な懇親会を予定しておりますのでご出席ください。

5. 問合せ 海洋研究所総務課

梶 03-5351-6345

原島 03-5351-6346

交通：新宿駅西口より京王バス 永福町行・佼成会聖堂前行乗車
弥生町三丁目下車。進行方向2番目の信号左



(詳細地図は、(URL : <http://www.ori.u-tokyo.ac.jp/map/index.html> 参照)

東京大学海洋研究所地球科学分野の研究紹介

高解像リモートセンシングと、海底堆積物ピンポイント・サンプリングを併用することにより、深海底における地球科学研究に新展開をもたらしつつある。

i) リモートセンシングによるイメージング

a) 高解像深海底マッピング

・ 海底音響画像探査

IZANAGI ; 解像度数 m、WADATSUMI 解像度数 cm

b) 高解像地殻断面イメージング探査

音波探査

ii) グランド・トゥルース

(深海底からのピンポイント・サンプリングで海底表層地層の積み重なりを知る)

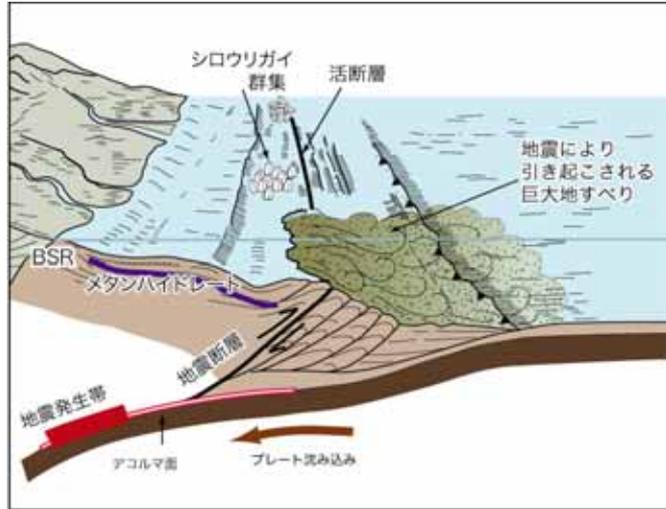
a) NSS を用いた海底表層からの泥・砂サンプリング



「プレート沈み込み帯の研究」

我が国はプレート沈み込み帯に位置していることから、沈み込み帯の諸現象を研究している。

プレート境界型巨大地震の活動履歴と巨大斜面崩壊；東海沖、東南海トラフ、相模湾



プレート沈み込み帯におけるメタンガス循環

- i) 堆積物中におけるメタンガスの移動とメタンハイドレートの集積
 - ・ 長期的隆起運動
 - ・ メタンハイドレートの貯留堆積物としての海底河川堆積物
- ii) 泥火山による深海堆積物から海水へのメタンガスの排出
 - ・ 泥火山の噴出史と3次元断面
 - ・ 泥火山から排出されるメタンガス量の推定

